

# スパルタシスト



付録 50円

2007年11月18日

**国家弾圧に対して階級闘争での闘いを！**

## 死刑を廃止せよ！

8月23日、3人の死刑囚が東京拘置所と名古屋拘置所で日本国家によって合法的に殺害された。3人のうち1人は最後まで審理が尽くされていない状態で死刑が執行された。これで、8ヶ月弱の間に10人が処刑されたことになる。今年、日本の死刑確定者の数は第二次世界大戦後初めて100人を超えた。これは10年前に比べると倍の人数である。死刑囚はしばしば何十年もの間孤立と恐怖が支配する監獄に収監され続け、死刑執行の情報についても執行の約1時間前になるまで何も知らされず、今日こそ処刑されるかもしれないという思いに脅えながら毎朝目を覚ます。国家は死刑囚の家族が死刑囚と最後の言葉を交わす機会さえ奪っている。つまり家族は処刑の後に通知されるだけである。処刑は絞首によって行われる。しかし直ちに死に至らない場合もたびたびあり、死刑囚は絞殺されるまで15分から20分あるいはそれ以上の間もがき苦しみ続けることになる。これはただ、死刑というものが、全ての人々、とりわけこうした残忍な資本主義制度の敵と見なされる全ての人々を、恐怖させ威嚇しようとする意図された野蛮で暴虐な行為であることを強調している。

死刑は資本主義国家を構成する主要な歯車の一つである。そしてこの国家は、資本家はその階級支配とその利益とを維持するための抑圧機構なのである。死刑は資本主義以前の階級社会で支配階級にはびこった拷問と殺人を野蛮にも継承したものであり、あらゆる点で社会の残忍さを強化する合法的殺人制度に他ならない。われわれは共産主義者として、ブルジョア支配を打倒するプロレタリア革命に向けた闘いの一部として、死刑に反対して闘う。われわれは原則としてどの地域においても死刑廃止の立場に立つ。無実の者への死刑廃止だけでなく、有罪の者への死刑廃止の立場でもある。われわれは、国家に人の生き死にを決める権利を与えない。死刑を廃止せよ！

国家は中立ではない。それは階級支配のための武器である。国家の中核をなしているものは、警察、裁判所、刑務所、そして軍隊である。資本主義の下では、国家の目的は、労働者階

**ブルジョア民主主義の幻想を押し出す改良主義左翼**

級や全ての被抑圧者に対する組織された暴力を通じて、ブルジョア支配を行使することに他ならない。現在、日本のブルジョアジーは、自身の利益を増やし帝国主義のライバルたちとの競争において優位に立つために、労働者の搾取率をさらに一段と強めようと目論んでいる。こうした状況のなかでの死刑の利用は、残忍な搾取に抵抗するために階級闘争を企てる恐れのある者に対する警告として、日本の国家権力の力をまざまざと見せつけることにあるのである。

日本帝国主義は、国内で労働者階級に対し自身の階級利益を一層追求する一方で、軍事力増強をも速めつつある。帝国主義とは資本主義の最高段階であり、ほんの一握りの最も強力な資本家の手に、日本では財閥の手に、産業資本と銀行資本とを集中することに基づいている。帝国主義者は、彼らが国内で搾取を強化するため国家を必要とするのと同様に、国際的に略奪と搾取を促進する目的で、国外の彼らの資本を保護し拡大するため国家、軍隊を必要としている。従って日本帝国主義国家は、3月半ばに、中国に対する現在の帝国主義による軍事的包囲の一部として、オーストラリアとの軍事協定を締結したのである。日本帝国主義は、米帝国主義との反革命同盟の一部として、中国と北朝鮮の歪曲された労働者国家を直接標的とする「ミサイル防衛」を構築するため莫大な歳出を行っているが、こうした軍事協定はそれに輪をかけるものである。そして帝国主義者たちは、中国と北朝鮮を是が非でも巨大な労働搾取工場に変えたいと切に望んでいるのだ。(歪曲された労働者国家とは、ブルジョアジーが収奪され、社会化された経済が打ち立てられた国家である。しかしこの国家においては、労働者階級が政治権力を行使しておらず、この権力が特権的なスターリニスト官僚によって奪われてきた。われわれは、この歪曲された労働者国家を帝国主義と内部の反革命から無条件に軍事的に防衛する立場に立つ。そしてスターリニスト官僚を一掃し、プロレタリア民主主義を確立して、世界中で新たな社会主義革命に向けた闘いを実行に移す国際主義の政策を確立するために、労働者の政治革命が必要である。)

## 死刑：プロレタリアートと被抑圧者を弾圧するための武器

歴史的にみて日本における死刑は、ブルジョアジーが労働運動や被抑圧者を弾圧し、重大な時期にその支配を安定化させるのに役立ってきた。明治維新直後の1870年代初めには、ブルジョアジーは、何千人もの農民たちを強欲な地主に対する反乱のかどにより処刑することで、安定した資本主義国家の基礎を築こうとした。そして、1905年に日本帝国主義が日露戦争に勝利を収めた後で、ブルジョアジーはプロレタリア階級による相次ぐ反乱によって揺さぶられた。その中で最も重要なのは、1907年の足尾の鉱山労働者による反乱であった。この反乱は軍隊の出動により鎮圧された。その後直ぐに導入されたのが刑法（1907年）と監獄法（1908年）である。今日、死刑を執行するうえで要となるこの2つの法規は、最初に導入されて以来ほぼ変更なしに用いられている。こうした法規は、プロレタリアートをいっそう効率的かつ残忍に弾圧することで、日本帝国主義の安定的発展を確保しようとしたものである。

第二次世界大戦で日本帝国主義が米帝国主義に敗北した後、労働者の闘争が巨大なうねりで湧きあがった。この闘争のなかで共産党主導の強力な労働組合連合である産別は、1947年2月1日に向けゼネストを呼びかけ、右翼の吉田内閣の打倒と「人民政府」の樹立を呼かけた。と

ころが改良主義の日本共産党は、権力に向けて闘うつもりもなければその準備もなく、土壇場になってこのストライキを中止し、プロレタリアートに巨大な敗北をもたらしてしまった。にもかかわらず、ブルジョアジーの自信は相当に揺らいでいた。新たな階級闘争に対し労働者階級に脅しをかけようとする一部として、国家は死刑の実行に踏み出した。そしてその後3年間に亘り90人以上を処刑したのである。

国家の手により合法的に殺害される何千人もの貧しい人々と労働者に加えて、国家とその機関はまた、必要と思うまくやりおおせると見ればいつでも、労働者階級の指導部を排除するために殺人を用いようとする。1923年、関東大震災の後で、6千人もの朝鮮人が虐殺され、また警察や軍隊や右翼は何百人もの中国人、共産主義者、無政府主義者、そして労働組合指導者を追いつめ殺害した。さらに、資本主義支配者たちは、恐怖を植えつけることを通して抗議行動を無力化しようとの純然たる目論見から、敵と感知した者への見せしめ処刑をも繰り返して行ってきたのである。こうして、卓越した無政府主義者の幸徳秋水や菅野スガ（両者とも1911年処刑）から、英雄的なソ連のスパイのリヒャルト・ゾルゲや尾崎秀実に至る人々が処刑された。ゾルゲと尾崎は第二次大戦中にソ連のスパイ組織を導いたが、全ての革命家たちにとっての緊急の任務はソ連邦の軍事的防衛であった。ゾルゲと尾崎は、ドイツ帝国主義によるソ連侵攻の決定的な事前情報を見事にそして大胆に掴んだ。ところが、彼らの警告はスターリンによって無視され裏切られたのである。そして1944年、ゾルゲと尾崎は日本帝国主義によって処刑された。この日は11月7日でロシア革命の記念日であった。そしてそれは、資本家たちの恐れとソ連邦への憎しみ、そして日本においてプロレタリア革命を防ぐための彼らの決意を表していた。

重要なことには、現行法では死刑になりうる罪として、殺人を含め17の犯罪が規定されているが、そのなかに戦時における「外患援助」や「内乱首謀者」が含まれている。近年では、死刑が殺人をとまなう凶悪犯罪で有罪判決を受けた者に対して適用されているが、しかしブルジョアジーは、必要と見なせば、残虐な国家弾圧を労働者や共産主義者や全ての被抑圧者に対して向けるだろう。

## 国家弾圧に対し階級闘争での闘いを！

数十年も死刑囚監房に収監されていた人々の処刑を含め、今日における「犯罪防止」キャンペーンの高まりは、国家機構の強化を正当化するための戦略に他ならない。資本家階級は、殺人やレイプのような暴力犯罪に対する人々の恐れを巧みに利用して、益々苛酷な弾圧策を課そうとしている。政府は、暴力犯罪の増大なるものについて、ヒステリックな風潮を広めようとしている。そして特に、外国人と「犯罪」を同一視させようとしているのである。この資本主義国家は、こうしたひどい人種差別主義を押し進めつつ、被抑圧者、特に外国からの移民に対して日常的に暴力を行使しているのである。

日本の刑務所や入国者収容所は、疑わしい「自殺」から拷問や適切な医療を与えないことに至るまで、収容者に対する刑務官による組織的な暴力で悪名高い。その適切な例が、ビルマ出

身の移民パトリック・ラシェーインの例である。彼は20年の間日本で暮らし働いてきたが、2003年に逮捕され、2005年まで入国者収容所に拘留されていた。そして、収容所内での恐怖に苦しみ医療も施されず、釈放された2週間後に死亡した。(P・ラシェーインの事例や他のこうした恐ろしい現実の例は、『壁の涙—法務省「外国人収容所」の実態』、2007年刊、に存分に記録されている)プロレタリアートの利益だけでなく全ての被抑圧者の利益をも擁護する人民の護民官たらんとして闘う共産主義者として、われわれは言う。全ての入国者収容所を閉鎖せよ！強制送還反対！全ての移民そして日本に暮らす全ての人々に完全な市民権を！

朝鮮総連は日本ブルジョアジーによって徹底した破壊の標的にされつつある。資本主義の裁判所は朝鮮総連に対して総額627億円もの法外な金額を支払うよう命じた。そして政府は朝鮮総連が負債と税金を返済できなかったとの口実の下で、すでに朝鮮総連本部を差し押さえているが、こうした返済金は破産させる目的で理不尽な金額で朝鮮総連に課したものである。このことは、過去一年の間に日本全国の朝鮮総連関連施設に対する一連の強制捜査に続いて起こっている。そしてこうした捜査は「拉致」疑惑や、さらに北朝鮮への医薬品の「不法輸出」という口実の下でさえ行われているのである！朝鮮総連に対するブルジョアジーのキャンペーンは二重になされている。それは、生活水準への全面攻撃に直面する労働者階級を分裂させ弱体化させるために利用される、卑劣で反朝鮮人の人種差別主義である。それはまた、北朝鮮の歪曲された労働者国家を悪玉扱いする反共キャンペーンでもある。日本帝国主義は、自分のかつての植民地が独立を果たしたばかりか、さらに国土の北半分で資本主義支配が打倒されるまでに至ったことにひどく怒っているのだ。北朝鮮は反革命的なスターリン主義のカーストにより政治的に支配されているが、そこでの資本主義打倒は国際的なプロレタリアートにとっての獲得物であり、この獲得物は帝国主義の攻撃や資本主義反革命から防衛しなければならない(『スパルタシスト』リーフレット、『北朝鮮を防衛せよ！』、2006年7月15日を参照)。北朝鮮に対する経済制裁を打倒せよ！朝鮮総連を防衛せよ！

抑圧されたマイノリティの人々は、たびたび国家弾圧の最初の標的とされている。被差別部落出身の石川一雄氏はその適切な例である。彼は犯してもいない殺人の罪を資本主義国家によってでっち上げられ、1964年に死刑を宣告され死刑囚監房に送られた。1963年に石川氏を逮捕した警察は、彼らの標準的な技法を実行し、石川氏を脅して虚偽の供述書に署名させた。しかしながら、いわゆる「狭山裁判」に提出されたこの供述書やあらゆる捏造証拠は、醜怪なでっち上げを覆い隠すことなどできなかった。とりわけ殺人犯によって書かれた脅迫状は、明らかに高度な教育を受けた人物の手によって書かれものであり、この筆者が文書構成能力を持っていることを示していた。しかし石川氏は、差別と貧困により小学校もほとんど行けず、文字の読み書きができなかった。1974年に、東京高等裁判所は、でっち上げを包み隠して石川氏を一生監獄に閉じこめておくために、刑を死刑から無期懲役へとすり替えたのである。

大勢の被差別部落出身の労働者と部落民でない労働者が石川氏の釈放運動に参加した。なぜなら彼らは、石川氏の冤罪のうちに、彼らがこの資本主義制度で日々に出くわす苛酷な差別と搾取を見たからである。石川氏は、30年以上に亘り生き地獄の監獄で過ごした後、自治労やその他の労働組合、多くの被差別部落組織による請願により、1994年に仮釈放を得た。このこと

は彼自身の言葉では「目に見えない手錠」を強いられる生活を送ることになったのである。石川氏とその支援者たちは、事実を全て明るみにし、冤罪を立証して、汚名をそそぐために、再審に向けて運動を繰り広げている。われわれは言う。石川一雄氏の有罪判決を直ちに覆せ！この事例は資本主義国家の本質をまざまざと示している。すなわちそれは、警察、検察、裁判官そして裁判所が、彼を合法的に殺害するか一生拘置し続けるという一つの目的で意識的に結託しているということである。このことが示しているのは、いかにして国家機構の全目的が、まずは最も脆弱な被抑圧者層を弾圧し、そしてそれから究極的にはプロレタリアートを弾圧するかということである。なぜならばブルジョアジーは、労働者革命によって資本主義を粉砕するプロレタリアートの潜在的な力を何よりも恐れているからである。

日本では、ブルジョアジーは政治において自民党と民主党によって代表されている。自民党政府は、特に卑劣で排外主義であり、当然多くの労働者や若者から嫌われている。そうした性格の一端は、最近、自民党の鳩山法務大臣が、大臣署名を不要にすることで死刑執行が全て自動的に進むようにと要求した時に示された。しかし、7月の参議院選挙で過半数を獲得した民主党も、労働者や被抑圧者の執拗な敵であることをはっきりさせなければならない。民主党は、国外及び国内での日本帝国主義の利益を追求しようとする資本家政党であり、自民党と異なる戦術を持っているにすぎない資本家政党である。民主党はすでに公務員労働者を大々的に攻撃すると約束するとともに、若年労働者や高齢労働者の最低賃金を引き下げることでプロレタリアートをさらに分裂しようと意図している。そして、街頭にさらに警官を増やすよう要求するなど、国家弾圧をエスカレートさせることにも当然ながら同意しているのである。

改良主義左翼は、ある時は（2007年の東京都知事選でのかけはしグループのように）民主党と公然と協調するか、またある時は民主党が自民党に「屈服する」とか「大裏切り」とか不平を述べている（中核グループの『前進』、2103号）。反対にわれわれは、マルクス主義者として民主党に対し階級線を引き、民主党もまた階級敵だということを労働者に説明する。必要なことは、資本主義搾取者の内に存在しもしない「よりましな悪」の翼を探し求めるのではなく、資本家による労働者や被抑圧者への攻撃に対して、階級闘争へとプロレタリアートの社会的力を動員することである。

資本主義社会は非和協的な利益を有する階級に分裂している。それは主要には資本家と労働者である。資本主義は資本家による労働者階級の搾取に基づいている。資本家は工場、機械、輸送機関といった生産手段を所有し、その目的は人々の必要物を生産するというよりもむしろ自身の利潤を最大限にすることである。搾取、貧困、人種差別主義、そして戦争はこの資本主義制度に本来備わっているものなのである。さらに資本主義が基盤とする民族国家は、人類の生産諸力のさらなる発展に対する障害物である。労働者や被抑圧者の利益ために機能させるよう資本主義を改良することは不可能である。

しかしながら労働者はただの犠牲者ではない。カール・マルクスが述べているように、労働者階級は「資本主義の墓掘り人」である。労働者階級は、生産におけるその地位やその数や組織化を通じて、資本家の支配を打倒し、労働者国家を打ち立て、労働者や被抑圧者の利益のため

めに運営される国際的な計画経済を建設する社会的力を持った唯一の階級である。この計画経済は、周期的な経済危機や大規模な惨状に導く資本主義の利潤制度の無政府性を廃止するだろう。人類の生産力におけるその後の発展は、相互に競争し合う資本家のためにはではなく、労働者や被抑圧者のために明確な計画に従って機能する全社会に管理され、最も進んだ資本主義諸国さえも上まわる生活水準へと人類全てを引き上げるだろう。

ところが、労働者を自身の階級的利益のために動員するうえでの主要な障害物が、共産党や社民党といったブルジョア労働者党であり、また官僚主義的な労働組合指導部である。こうした労働組合指導部は、ブルジョア労働者党に追随するか、あるいはまた最も社会的な力を持った労働者たちを組織している連合のように、資本主義の民主党とさえ直接結び付いている。共産党も社民党も、組織的には労働者階級と結び付いているが、その指導部と綱領は完全に親資本主義であり、従って綱領的には資本主義秩序の防衛に基づいているのである。かけはしや中核や革マルといった改良主義グループは、時にはやや戦闘的な言辞を用いているものの、資本主義が被抑圧者の利益のために機能することが可能であるという、基本的に同じ改良主義の虚を押し出している。反対にわれわれスパルタシスト・日本グループ(SGJ)は、世界中での労働者革命によって資本主義を根絶する闘争の一部として、日本帝国主義者の支配を打倒する労働者革命に向けて闘う革命的な国際主義プロレタリア党を鍛え打ち固めるために闘っている。

## ムミア・アブージャマルを釈放するため労働者を動員せよ！

われわれの組織、国際共産主義者同盟(ICL)は、米国での主要な政治犯、アメリカ人死刑囚ムミア・アブージャマルの釈放のために、国際的なキャンペーンを繰り広げてきた。ムミアは受賞経験のあるジャーナリストで黒人コミュニティ運動(MOVE)の支持者であり、15歳でフィラデルフィアのブラックパンサー党のスポークスマンだった1969年の時点から、すでにFBIの標的となっていた。彼は、ただその政治的な経歴と信念ゆえに、1982年に警官殺しという冤罪で死刑囚監房に送られた。国家はこの強力な「声なき人々の声」を沈黙させようとしている。米国では、人種差別主義の死刑は奴隷制度に根ざしている。つまりそれは、奴隷所有者の合法化されたリンチ用絞首ロープなのである。ムミア・アブージャマルを釈放せよ！人種差別主義の死刑を廃止せよ！（『スパルタシスト』増刊号、2006年6月13日を参照）

ムミアの裁判は現在重大な局面を迎えている。今年5月に行われた口頭弁論の後で、米連邦控訴裁判所は彼の運命に関して言い渡すことになっており、いつでも決定が下される可能性がある。今こそ、国際的な労働者階級の力に基づいた抗議行動を動員する時である。今こそまさに、「司法制度」（資本主義の不公正制度）の訴訟手続きにいかなる幻想も抱いてはならない。アブージャマルは、共同一致した茶番劇の裁判により、死刑囚監房へと送られたのだ。この茶番とは、悪名高い「死刑頻発の判事」から人種差別主義の陪審員選定に至るまで、でっち上げの「自供」から捏造された弾道証拠に至るまで、検察による目撃証人の買収やあからさまな強要からムミアの憲法上の権利にたいするたび重なる侵害に至るまで、などである。過去25年の間、米国の裁判所は彼の無実を証す圧倒的な証拠を退け、あるいは考慮することさえ拒絶してきた。そうした証拠には、警官を殺したのはムミアではなく自分だと述べているアーノル

ド・ベヴァリーの宣誓供述も含まれる。米国のブルジョアジーはムミアのなかに黒人反乱の亡霊を見ているのである。だからこそ、彼らはムミアを合法的なリンチで殺すか、生き地獄の監獄へ幽閉するのを決意しているのである。こんなことがあってはならないのだ！

1995年、ムミアは死刑執行命令書に署名されるという事態に直面した。この時、SL/US (ICLの米国支部) と連携した階級闘争による合法的社会的防衛組織のパルチザン・ディフェンス・コミティの活動により、また何百万もの労働者たちを代表する労働組合に支援され、世界中で抗議運動が沸き起こった。そしてそれはムミアの死刑執行を停止させることになったのである。ところがこの運動は、「新たな公正な裁判を」という呼びかけで資本主義国家への幻想を押し出す改良主義左翼によって意気消沈させられてしまった。あたかもブルジョアジーがムミアに「公正」なる裁判を与えるかのように！ われわれは、ムミアのためにあらゆる可能な合法的手段を追求する立場に立つ一方で、資本主義裁判所の「公正」にいかなる信頼もおいてはならない。ムミアの釈放を勝ち取るためには、労働運動を中心とした国際的な大衆の動員を必要とするのである。今こそ、ムミアの即時釈放を要求する大衆抗議の炎を再燃させなければならない時である！

改良主義者たちにとって、ムミアが無実であるという証拠は不快である。なぜならそれは、彼の裁判が例外的で異常なものではないこと、一人の人種差別主義の判事、あるいは一人の悪い警官に関することではないことを示しているからである。実際その証拠は、最も戦闘的な敵を黙らせるためには何でもやろうとする人種差別主義の全資本主義制度に根ざすものなのである。改良主義者たちは国家の本質を隠し、始めからムミアに濡れ衣を着せた正にその同じ裁判所への信頼を説教しようとしている。だからこそ、労働運動を中心とした大衆運動を再燃させるわれわれの闘いは、主として、改良主義諸組織によって押し出された資本主義国家への幻想と闘うことを必要とするのである。資本主義裁判所に幻想を持つな！ ムミアは無実である！ 今こそ彼を釈放するために労働者は動員しなければならない！ 日本において国家弾圧が増大しているという状況の中で、次のことは明らかである。すなわち、ムミアの釈放を求める闘いは、米国だけでなくここ日本や全ての国々で、資本主義の圧制や不正に対して闘うことに他ならない。それは国際的な労働者革命を通じて資本主義をきっぱりと葬り去る闘争の不可欠な一部なのである。

## ブルジョア民主主義への幻想を押し出す改良主義左翼

ブルジョアジーとその政治的代弁者たちは、死刑に関して異なる見解を持っている。しかしこうした相違はもっぱら戦術的なものである。つまり、被抑圧者に対する効率的な弾圧装置を維持するには何が最良かということである。民主党は2003年に、「幅広く議論」し、仮出獄を認めない「終身刑」(日本の現行法には存在しない)を創設したうえで、「死刑制度調査会の結論が出るまで死刑の執行の停止」を導入する法案に国会で賛成した。民主党は次のように強調した。「民主党としては、当法案は死刑廃止そのものを目的とするのではなく、国会に調査会を設置し、死刑の是非も含め、幅広く議論することは有意義であるなどの理由により賛成の態度を決めた。」最近、日本で最も声高に死刑反対を唱えている弁護士の一人である安田好弘は、

死刑に代わって「終身刑」を導入するという考えに賛成し始めた。彼は、死刑に関する彼の見解のために脅しや死の脅迫を受けたが、それに対し勇敢に立ち向かってきた。こうした「終身刑」導入の考えはまた、元警察官の亀井静香が会長を務める「死刑廃止を推進する議員連盟」の立場でもある。しかしながら民主党とは対照的に、議員連盟の立場が重要なのは、この連盟に自民党や民主党に加えて社民党や共産党のメンバーまで入っていることである！ われわれは、ブルジョアジーの一部が、どんな国家弾圧の手段が最良なのかということのために、(民主党のように) 死刑の「是非を議論」したり、(亀井のように) 死刑の廃止を求めるのを予期できる。しかし、共産党や社民党のメンバーが、人々を地獄の監獄に一生幽閉する代替案をブルジョアジーに提案する活動に参加することは、プロレタリアートの利益を根本的に裏切るものである。SGJは共産主義者として、国家の合法的殺人機構を打倒するいかなる試みも歓迎するが、しかしブルジョアジーに代替案を提言しようなどとはしない！

こうした裏切りが共産党の改良主義的綱領の要をなしている。そしてこの党はひどいことに次のように唱えている。「足りない場合は最小限必要な警察官を増員する」、また「裁判官の増員は待ったなしです」(2007年の共産党の選挙用パンフレット)。警察官は、共産党が明言しているような、「公務員労働者」ではない。裁判官と同様に警察官は、ブルジョア抑圧機構の不可欠な部分である。彼らの増員はただ、労働者階級や全ての被抑圧者に対する弾圧の増大を意味するだけである。共産党は、こうした胸くそ悪い屈服に歩調を合わせ、一方において文書では死刑廃止の立場に立っているにもかかわらず、最近の死刑執行に抗議することなく顕著なまでに沈黙している。特徴的なことに、共産党による死刑反対の主要な文書は、血塗られたブルジョアジーの支配に基づく資本主義の日本国憲法のために作成された1946年の提案であった！ こうした階級協調の展望ゆえに、共産党指導部がブルジョアジーの攻撃や特に死刑に反対して、党の労働者階級基盤を動員するのを拒絶するのも当然なのである。

社民党とかけはしグループは、最近の死刑執行について公然と非難し、それをめぐる抗議行動に参加した。そしてかけはしグループは公然と死刑廃止を呼びかけている。しかし、かけはしのような改良主義グループの特質は、資本主義的帝国主義が被抑圧者のために真に民主的な方法で機能させることが可能だという幻想を作り上げることである。そして彼らは、それなしにブルジョアジーの具体的な弾圧策をどうにかして正しく反対することができないのである。この点に関して最もばかげているのは、最近中核グループが「裁判員制度」について述べた次のようなコメントだろう。すなわち、こうした制度の導入は、「基本的人権を柱とする現憲法下の司法制度から、侵略戦争に人民を動員するための司法制度に転換する攻撃である」(『前進』2271号)！ かけはしグループは、いかに死刑がブルジョアジーの階級支配を維持することに結び付いているかについてはひと言も触れず、これと同じ趣旨を最近の記事(『かけはし』1992号、1980号)でより巧妙に押し出している。社民党が国連による「死刑反対」の言辞を異様に称賛する一方で、かけはしグループは国連に関する批判やその性格についてひと言も言及することなく、国連の「拷問禁止委員会」団体による報告を機関紙に掲載することで追随している(『かけはし』1980号)。実際には、国連とは帝国主義の強盗どもとその犠牲者の巢窟に他ならない。国連は、数ある犯罪の中でもとりわけ、(日本政府の全面的支援の下で) 経済制裁を通じて150万人ものイラク人を餓死へと追いやった張本人なのである。



実は、国連が被抑圧者のために活動しようという幻想を振り撒くことは、ただ死刑が廃止されその他いくつかの「修正」がなされさえすれば、資本主義制度は被抑圧者のために機能するという嘘を押し出す社民党とかけはしグループには全く一致したことなのである。例えばドイツやイギリスのような最も進んだ資本主義諸国は死刑を廃止している。にもかかわらず、こうした国々は依然として残忍な国家弾圧を通じて搾取と抑圧を維持しているのだ。もちろん社民党もかけはしグループも、1990年代に社会党の村山首相の下で2件の死刑が執行されたことなど言及もしない。こうしたことは、いかに労働者階級や被抑圧者に対するブルジョアジーとその国家の暴力が労働者革命なくしては根絶できないことを強調している。

かけはしグループは、その究極的な展望について次のように述べている。「われわれは〔中略〕反資本主義的オルタナティブを推進していく立場として2002年のわが同盟第19回大会以後、『グローバルな平和・公正・人権・民主主義』の実現という立場を打ち出してきた。」(『かけはし』1558号、1559号、2007年1月1日) たとえこうした綱領を時には「社会主義」と呼ぶとしても、資本主義国家という枠組みの中で「人権」とか「民主主義」を達成するということが根本的にリベラルな概念であるという事実は覆い隠すことができない。かけはしグループは、その極めて社会民主主義的な綱領と合致して、死刑を階級闘争とは無縁な主に道德問題として提起している。かけはしグループによって無批判に宣伝された書、『死刑って何だ』(村野薫、1992年)には、次のように述べられている。「もちろん、宗教や教育といった分野で活躍している人々も〔中略〕、何よりも死刑というもの自体が、人間の心を卑しめてきているのだという事実を訴え論していくことによって、国民を健全な方向に導くことができよう。検事、判事、監獄関係者、法務大臣といったような、実際に死刑という制度と向かいあっているような人たちなら、なおさらである。」この記述は、資本主義国家とその代表者たちに反対してプロレタリアートを動員するよう求める代わりに、国家機構に向かってもっと人道的になるよう、「国民を健全な方向に導く」よう直接訴えているのだ！ かけはしグループは、資本主義国家の暴力がこの搾取制度に内在する固有の一部ではなく、単なる悪しき政策にすぎないという改良主義の嘘を押し出すことによって、資本主義国家の改良という幻想を振り撒いている。そしてこうした幻想こそがプロレタリアートを政治的に麻痺させるのである。かけはしグループは、従って国家弾圧に反対する階級闘争にプロレタリアートを動員するうえでの政治的障害物であり、また従って労働者革命のための全闘争に向けてプロレタリアートを動員するうえでの政治的な障害物に他ならないのである。

現在の状況は、労働者階級が全ての被抑圧者の先頭に立ち全般的に反撃するのを叫んでいる。何百万ものプロレタリアートは、もし階級闘争においてブルジョアジーから独立して動員されるならば、自身の利益を防衛することにおいて強力な勢力となるだろう。スパルタシスト・日本グループは、階級闘争やその他の社会闘争に介入し、革命的な労働者党を鍛え打ち固めるための闘いに労働者や若者を勝ち取るよう努めている。この革命的労働者党は、共産党や社民党、そしてかけはしグループのようなその追随者たちの改良主義に対する政治闘争の中で、鍛え打ち固められるだろう。われわれは日本の革命的転化のために闘っている。それは、資本家階級の支配による猛烈な搾取や残忍な人種抑圧、そしてその支配の強化を通じたバーバリズムを終わらせるプロレタリア社会革命である。われわれが打ち立てようと闘っている革命

党は国際主義であり、日本のような帝国主義の中心諸国のプロレタリアートや被抑圧者の闘争を被抑圧諸国の人々の闘争と結びつけるものである。われわれの目的は、労働者が権力を掌握し、資本主義国家を粉碎し、そして自身の国家、すなわちプロレタリア独裁を打ち立てることにある。これこそ、戦争、人種差別主義、貧困、そして搾取から解放された世界へ向けた最初の一步となるであろう。こうした闘いに参加せよ！

## 世界の労働者、団結せよ！ 新たな十月革命を！

---

(“Abolish the death penalty! For a class-struggle fight against state repression! Reformist left pushes illusions in bourgeois democracy”, *Spartacist* supplement, November 18, 2007)

### 出版物の申し込み

申し込みから2年間、発行された全ての出版物（不定期刊）及びピラを郵送します。

2年間の料金：500円；郵便振替も利用できます 00110-0-49515 SGJ

名前

住所

TEL

スパルタシスト・日本グループ 〒115-0091 東京都北区赤羽郵便局私書箱49号  
03-3963-8007

国際共産主義者同盟（第四インターナショナル）日本支部

2007年11月18日

労働組合による印刷